蜘蛛句撰七卷集

全

中村俊定文庫
文庫 18
730

宮内庁書陵部
宮内庁
秋田藩
秋田藩書
中村侯定文庫

ゆかれしハ古佛この集らし
えへ了り齢八十一ミしミつゐよ
佩像の以ふ男ね于時享保四己亥十二月九日ゐしけ
にり乙来超きぢ新中有精氣工
黄瓜見ら海つ聖あり於
おうし蓋しら故くの出世ハよ
多ひく志ハしくしての孫吉く
八了今まくハ世るも乞ら了云
報恩千部よあらまあちうち

さつらずめし葉ろいぬかし足
おらんやとひされいえ扱の著よ
様れる京仏七尊ゆし玄孫の
南しむむくし樒あよもり
すし女西しせの観数き三千寺
偏遊の一切経よ几おれうしと
受ら徒の縁けれし等しむ様のミ

文化三年
仙台
四世吉右衛門
桃隣

元禄六丙子年二月十八日

人麿講　桃隣亭

元又東叡山寺義忠祥　枳風
書八代ゝもをきゝ　仙化
孫ゝ月赤貝赤の絲帆引て　全峰
四五八ゝ三ゝ　水花
両箱を物ゝ中なる上ゲたる　其角
船ゝ代明ゝ大の鼻づ　必我

ウ風を大燈て漫く大和機　桃隣
海は陸にかる浦米　万巻
仏は恒沙丁さうに成り　角
山をとる小田原乃屋　風
蕎麦賀一日二百はかりの思ひ　花
数は結国のゆるき姿　化
蟬を採まもる武士めし　我
一里余く音大井川　角
鮑の石の擬り　巻

ちいさな御師の神乗移し　花
夏旅迷ひ月明八尺玉　我
結宮よ、ゆをよもぎ虫の吉　風
詣を荷作もく新の絶　化
名誉な癖くロて仇名　隣
頂とるき看板書替八丸　我
彩は消るとまゝの垣　巻
石庚の烟りにむこき数るのも　隣
藪は中まで洗ふ洗足　化

紫うすくて可愛らしき新酒の
蕎麦 色うせて見る小豆粥　角風
障子はり替ふる紙は皺ふ成　栽化
頼摺をとく思ひ切する
須戸より出て月立春の月　春花
平稲の御供を洛中に持
知かれの橋を渡し山家　隣角
摺て掛てを怪き年深数
見物もなれも面白味ある年毋　風

道奥ぬすむ京社付谷　花
初見出小鮎を養ふ茶の産　春
物を蘭ぬかりの泥竈　隣

遥ふ思ひ申し名不風雅て
ふるを迫くて俳一句を窺ふ
岩城山と思へば高の夜末立　桃隣
梅ゑ雛の雛て立る方八玉河　露沾
引紐寸鉢蘭の枕歩申く　助叟

樂屋の扎を僕ら清原　沾徳
坂ゆゝしく門も重てきき秋の月　沾荷
蘭の薫くものもの和前　亀谷
[illegible]書了ハ自ひて清茶と　芳津
去主ハ沈と沼るもゝ　沾国
列とハ兎に繋を曲さす　谷
何を祝ふも[illegible]なる海面　隣
主帆なゝ播ヶ沼る色ハ　沾
祝ちゝ松を屋ハ沼る　豊

新条律ハる近をゝ沼る色
ゝ分のゝるもゝ主ハ付紙　国
鶴掛ハ借ゝ清ゝ青の月　津
松ゝ涛ゝゝ仕地の橋の木　徳
宛義をもゝもものいりゝと　荷
沈里祝ゝ鎌倉の俗　谷
俗雪ゝ西ゝ行ゝる雛の考　沾
文字彫筏ゝ蒼ゝ清めく　豊
馬嘯の襲ゝ亜ゝ　徳
　　隣

国荷谷津豊沾陳徳荷

剛よきく弱るむし共
家艸小鶏も庭くゝ時ゝ乳木
常の常の枝了菊の自の枝
思ひ支色よきのゝ古華蕊
祈をハ猫ゝ鶏ゝ幣帛
引釜寸板久の糸杉御書
二人を宮を入ゝ愛笠
交藤の常紙ゝ山鳥
蜆了雀の内迄も来る

十

ゝ付を鶏を振寸熱胆川
語ゝ豆腐の味ハ喰ゝを
言ん と思ゝを呟噦ゝを止ル
面ゝ 硯ゝ 残ゝ 床
ゝの雀ハ弗を拾ゝ色の豆
泥道ゝ書ゝを書の者

豊津国沾徳谷

[illegible]須の籠京まで送りたんと
仰せられ仏前筒ちと遅るに未明
[illegible]を知らせ[illegible]れ
たのつ[illegible]海道おの[illegible]
かつて[illegible]別を惜しむ

別力て成[illegible]りまも湯屋山　挑賀
布子　裕　沈を帷子　挑隣
芝屋相も南東を門達を　翹輪
いやといふまで[illegible]　助豊

今は[illegible]分の時[illegible]峰三　挑水
星巡偏[illegible]を省すると　白挑
は濱の指八巻[illegible]　挑雫
[illegible]する仏の嬰夏　賀
駅同[illegible]大形[illegible]　隣
積る[illegible]濱[illegible]峰　輪
詣て[illegible]三番三　豊
借ぬ相撲を見物て[illegible]　挑
婿[illegible]ない[illegible]て[illegible]　雫

思ひたちて振入ぬ繁
吉ふと加茂の葵を取て来ル　水
葵葵をもとよりかすり　隣
月代の遅き竹の百重　叟
野藤ちつて家を引繁　賀
穴ハと何もかゝり　輪
みな南ゆゑ　隣
ちりのこるもまばらぬ下思ひ　叟
呵くを暗篠の風　挑
　　賀

引ぬきまを履もて南ゆ大工第　隣
撥鐘ふて、行ふ朔日　叟
十軒ふ呂ぬを村の名を負　雫
形つゝを四角よ組る華　水
ぞつゝを異の塞るの花　輪
婚まゝ孫と言る了殆言の れ　賀
塚の月西ゆ谷へ呼つゝ　隣
松家とるゝも上まゝ有　挑
先交ゝ角力ゝ鶴ゝ　水

瓶梅も五理をもの初春　雲
衣くるふ枝さくらのとぐるきを　隣
天窓ぬけ九十の癖ふ月巡ひ　輪
もゝ鳥ハ鶯の出生ゝ　叟
見ゝ柳の根をもて漏水　雲

常陸なる中義ゝ屋のゝ弁慶　芭蕉
ゝき白ゝる紅ゝ系　俳　子珊
釉ふ朝の子雲の春ゝ　杉風
山ゝの根ゝ掘ふ紀　桃隣
かんゝ雲雨ゝ雨柱　八来
槽掘ゝゝ又来る　焦
作ゝゝ住持ゝ破ゝる　珊
ゝゝ作風の吉　風
美堂ゝ明杉ぬゝ枕　隣

おさき新の分たしなきを
高ひも巻と肉の納りを
山のふさる下命の星
手紙の付ハ龍の手むつ
四月の月も来て白き新
秋来ても洲のもの知れて
ひとりの羽の生ふ春
つゝと星のまゝも蟹
知たいもよりうり

桑
蕉
珊
風
隣
桑
焦
珊
風

正月のもらう雑治の人雇
清る俵をこゝに元
壺の酒森ゝ破ほつきゝ
わりの明ハ帰る女房
手酒を利と斗よ延
き人間ゝ鶴ハ霧を乗せす
俳諧ふ書を付よ切入ゝ
見世ゝ裏ゝ引迎
ゝふゝ今年ハゝ春ハ月

隣
桑
焦
珊
風
隣
桑
焦
珊

[illegible]

風　蕉　桑　焦　珊　風　桑　隣

元禄六酉仲秋深川
芭蕉庵旧ちのたよ入て

生綿毛ちぬ生弱ち　其角
半の巻ちの井の松葉　挑隣
鱠ち氷月のちを見ちて　仚我
乳　ちち　羽打ちち　角
[illegible]ち　陵
掘ち　ちあち小四の挑灰　我

の中に蓋を設けたる清酒理
想的なる商の小屋
今の体親より
二十四五まで定まる心
紋好の貴いまでもあまり
加へとやうに秘伝の酒
人にも技術を医者は武士迄
海の糸つり地竹
井の蓋を設けたる月

角　麻
我　角
隣　隣
角　我
我　隣
隣　角
我　我

角　隣
隣　我
我　角
角　隣
我　我

二

細太刀具足の解の表
五ちらつかせ物の羅
紙代にたるまの偽
竹を器に仕ちり
巻と稱する二ちのの湘南
野城の中の

草叢らしろよる屋号の月　角
ひやうかの滝の綿（イトスヽキ）　隣
樫の木の椎葉山より面よりの　我
米田の一所の寄こほろ　角
如中まで千ろ碧ろ奇貴　隣
兎額八屋ろけろ　けむ　我
誰と誰ろ珠数賢ろ光　角
彼岸せめと下ろもち　山　隣
ろもと沢ろ吹ろ浅　我

旋茶花ろ蛙を橋　角
四塚の沼ろを水の素ろ　隣
一ひの沢を一双の霍　我

天明民具行

道ろ指ひあ月めてか、ろ　桃隣
さんろ水の芭蕉ろ　保風　野坡

八月十五日はんのうと新明と　利牛
塀の和まと桐のひろうまと　隣
洞蘆ろうかまめる沒と書之　坡
つゝ小峰ゝまと白のついやむ　牛
此の景色ゝゝ白ふかる　隣
近くに西色と出谷を書ゝぬ　坡
ゝゝゝ者を常住孫の面し　牛
いけゝゝ高れ十月の更　隣
屋新ゝ小雷鼓小ゝゝゝ　坡

小ゝ小ゝゝ蝶の仕云　牛
ちんまと西上小海紅ゝえ　隣
絶杖をゝりゝる　坡
内家沒紅写書る盆の角　牛
明ゝ西小書ゝ遊ふゝ　隣
人の鶴負ハ樂かゝ沒　坡
ゝゝや紅生も十出りゝ　牛
ゝ平の機ゝ稲ゝ亀　隣
むひの古ことれも見　坡

二

賞[illegible]て第(ダイ)一神[illegible]

[illegible]

牛

[illegible]の景ハ[illegible]秋の家

隣

杉の末ハ月[illegible]

坡

門[illegible]光の池の[illegible]

牛

たまれ[illegible]又新郭[illegible]詩

隣

[illegible]に我[illegible]占(サン)[illegible]

坡

[illegible]じんこと[illegible]

牛

峰[illegible]も[illegible]ハ[illegible]

隣

[illegible]ハ拾別[illegible]入

坡

懐物ハ組[illegible]富(トン)同影

牛

像を[illegible]

隣

[illegible]ハ[illegible]

坡

[illegible]ハ[illegible]入

牛

門[illegible]

隣

[illegible]の[illegible]

坡

鋤立上京除別の式部弘波園女列〻
一元禄癸酉世る詠艸墨墨の情小如、
作る八連中まさしくを移かく嶺
のこ

是かも遠山もそよ雪の松　桃隣
寒葉後れ雪や皆〻昌　鋤立
鳴物の蓋を吹ぬ八溫飛よ天　硼水
ふい〻ぶよ八何もおい〻来　方雨
遠垣の月一時るの丸ち羽　宇月
千匂吹ぬる蔦の葉の風　冬市

岐き庵も梅了又梅こう　茲少
一文銭ゥ寿小ふ〻川く　水
押合〻千面紅樂み梅を行け　旭志
〻ゃ六ゃ云〻を〻イ　正月　隣
何の千酒（ジカ）〻貢ゥ素雲（ミクス）雲　市
舞の位イもよれ千〻〻　持　雨
〻〻〻隆名ふたい物何の角力　茹毛
女〻織（スリ）を見て袖の露　立
文ゃ二ゃ住吉堺岸の和田　隣

月見の席で食ハ喰物ッ　少
二十五の尼共へ　もてこそ　月
袴を繕て　糸の糸ふ　志
二　まの垢ふ　ぬ　ハ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　毛
角のすくち　細の　月ふ　あ　水
義ふ　物　帷　稜ふ　ル　白の　後　市
内を　ハ　け　ハ　食　ふ　し　立
中ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　隣
國河の　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　月

義ふ出百日ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　毛
碁盤を押て　第の　雨
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　少
扨ハ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　志
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　立
月ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　少
七ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　月
小児の　孫を　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　市
籠（タガ）　袴ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　志

同一宗旨ハ[illegible]ふつゝ流
常[illegible]所も碧[illegible]の財
梅ハ色ひよ人[illegible]裏 [illegible]

水雨毛

古太白堂桃隣句選

拾遺拾九句

春之部

うゝ安の寺に起り雀哉
七種や[illegible]老松子ハ[illegible]の骨
[illegible]川の畠をたゝく蓮の船
ひゝ[illegible]ハ[illegible]のなゝ[illegible]梅[illegible]
筆[illegible]川[illegible]の[illegible]の據

雪雜墓子詠

[illegible]く清しま松も眠る中書の雨

[illegible]桃や[illegible]を[illegible]

[illegible]に[illegible]や仏[illegible]の色

世の中や大根の[illegible]も[illegible]色に

藤柑や塲[illegible]と[illegible]琴[illegible]不

[illegible]の[illegible]ハ流[illegible]る[illegible]川

東叡山

曉[illegible]花見の[illegible]

[illegible]や[illegible]者[illegible]

奉納

[illegible]の香や七ッ曲[illegible]山塲

[illegible]ふ[illegible]る樓[illegible]

[illegible]もなき[illegible]

首途

何[illegible]昼[illegible]

畑中の[illegible]遊[illegible]

[illegible]馬[illegible]

鹿島にて

春日　奉納

顔ばせの揃ひし三笠のもりの雲
赤国ちかき清代の源の安中要石

神軍の敵味方の城の
鬼の血とつふさぬ磯辺の砂

筑波峯山の奇瑞多し
土浦のもやまくしとる筑波山
筑波根の上に降る雪

海棠や鶏の鳴く寺の花の雨
赤松の末末下垂るの霧
小栗村あるる
泡鉢の細ものしきる川
東照宮奉納
宗房の輝く山や春の雨
冨士見山

三日月の重ふる
もハ浮ぶ湖水又角八住寺

雲ハ西ふもとを作りみちふかく
空東ふしの高嶺ハ鷲山の腰ハ河

寂光寺滝あり

手水の所ゝ苔のもまし
空ゝも雲ハ流乃ゝ表
行ゝハ眼あり番かゆき
着ゝかひもなき古妻也田螺掘
又ゝ多ゝ蛙おまやもゝ
雪ハ羽に乗まゝ薬ハ未沼

石川や築地に残る蔦紅葉
帆の影よいゝ今日も夏の海

夏ゝ

河ゝ
四月朔日　雨　三日庚申の夜
物鳴よ合羽や手拭の文衣

更衣とてぬもつゝ梅を簾の
内まゝに二階に椿うり時
遥かわたりひやし名残雅
もつゝもくゝ仕て一句を
窟内

岩城山と墨にて書のうゑ未を
一八ア[illegible]ふもうるはしき牡丹から
石蕾も[illegible]ふ別まし毒の色
[illegible]

梅ヲ雖の[illegible]

[illegible]なきゝ[illegible]
[illegible]ふ桃ふつゝ[illegible]
[illegible]

玉羽の尋る方も書すゝめ
浄妙寺桃を[illegible]
蟹日[illegible]

与市宗高
氏神
八幡

鐵[illegible]
[illegible]
法樂

木の下やくらくら照る山椿

四月

山峰の松葉なる白牡丹

奥の宮や四月に咲き雲の山

雲ぬけて月も見ぬ日の曇り

桂くり四方のくなるる夏の風

掬ぶもの指ひも繰蕭

小名濱

和歌浦を和歌ハ小名の濱

波ヶ川から一里程ある石川の渡り

ちらも反撥く岳辺むこの野

法絶の橋掛四社玉川玉拾石

何とも月しろうまる東

橋に来く蟬まるる蝸牛

岳もく名も玉川の玉柳

俵番山

南紀の宝山の僧あり

五月女下七宝投ん俵番山

宮城野
端午日

仙臺松山氏真行
山川の富を祝す
筆紙躍て清水や霧ハ青葉山
さく河の綿なる葉や花の一位
河也免嘗代りや陸奥の請ケ

仙臺大町南村子綱亭に宿す
旅つかれや明日の五月にりふの富

殺生石
気さしまや石を搗ふ、鳥のむし

取あへて川の流や翡翠
麻の子のつ河となひ出や山畠
和歌も言ふ[illegible]の[illegible]
牡丹見に行く[illegible]
翡翠のまきれて[illegible]牡丹
汀と潟の[illegible]を振る明夜哉
ゆくさきの[illegible]二日[illegible]の下[illegible]

机よ付と曲
五月やへの[illegible]ハ丸裸

宋女塚山の井まて
山の井を昭とそふ毎敷ゆ
あ遊ゝ原
塚とうり今も殺るゝ書畫
文字摺の石 長サ壹丈五寸 巾七尺余
文字摺の石は幅狭き形
実方中將の塚ふ同しく
石は多田なるの塚なり
云のとゆ歳りをとけて塚二ツ

一ゝせ芭蕉法ゝ川水者しゝて
駅の宮ゝを来ゝ田地唄の
風流とのこと 平泉ゝ
実盛ゝう例の柳ふ民ゝ
ゆゝ

鳴ゝ清ゝ細川孫右
ゑ井ゝ者ゆ伊賀ゝ蛙黽
黽ゝ原ゆゝ多ゝ田
澤の色ゝ水ゝ池の上
楊ゆゝ多ゝ澤ゝ者の農

たちぬる酒も破るる夏の月
塩幅と共に橋の上

第一の俳諧

いなの波や行よる雲の峯
川ふる蓮蒲の波や田のつゆ
七日まで夕涼しるるいやあれ

伊達郡桑折四村氏八武江
不卜門弟にて其角こ
乃をさのく清の巻と清
ら涼しい波の藏

とたらん 撫とゆ
誰う植ゑ 葉ゝ中能 紅留
蓮とそ咲て金の佛 岡の清水
陸奥国 移匠う魚や 湘南
六月雨の色や 清川大和川
涼川の末や 女中の前よ 粉

羽黒八景の中

移匠ゝも 尺ふる 黒川
夏の月 猶み物 仙滝山

笠松や先ふる雨の通り雨

蕉雨や八幡の里よ夏の月

沙者堂より指

まよひこむ巷富や九折

南殿梅表の里也名ものの井と

佐度庄司墓不一石塔次信

忠伝石塔あり

里の井の名も形ばかりや牡丹

九ものの猶も咲きこぼるるかな

武信腰掛松より

次信忠信兄弟

軍めく二人の嫁や也萬蒲

武隈の松ふる

武くまの松雅度の下陰

陵育や未ぞ離れぬ行平忘

一裏ハ釈迦堂ハ清水ふる

岩切新田といふ村

外ヶ浜よりかくれ蓑や一下搗

塩竈の明神へ法乗
神宮時よりそ日の入る度毎
自海へ舟賀の山沒ハ彩ふゆ
初時やわ月ゆ出くも秋の雲
たちそ形や霧う時ハいりに
橋二ツ潮汐海へ五大堂
麦嶮く時へ足川富の山
麓茂やいゆ海へ浦の色
御手洗や夏とこそ今も

笑精の花やきんこの奇石
多島や海へき海を遠眺望
今を堂や沈もも打す道の色
四へ入寄うむへ語や云い
軍ヤ人カも又又を亦保る
虹かへてぬけさう海へ彩の色
扑の末の寄や幸の下陰
吉川上宿を立事秋山茶屋
平泉なり長人を一宿

暑き日や神農菓子の

夜烏とぶ村うつる小町塚

雲雨の雫や夕日の塚の上

移家の山極むし一盛提山

山路吟

おとろきい谷より深き葛の忘

高峰をかすめる夏の雲

渡船より高山桜をちらす

鐘鳴とこ十里寒うふる川

志ゝ乎の庵やうゝよんだ

雪ふうふうの風ふく油の浦

うゝ山ゝる高や汲田の辻ゝむ

きさゝゝや庵をしゝうよ接

能因よ酒をしゝ一つの雫毎の忘

芭蕉よ仏やとゝもゝ寄良も

仏地よ寄りて

波こゝ数笑うやうけし彩の菓

しやむやの寒やむやゝ思人や

出羽州人間宮長好
四字ヶ[illegible]

樹もこもれる木の陰なく夏なれど
夏なれども入り日高き梢なる蝉
夏なれども八幡宮の社殿字川
[illegible]を羽黒の[illegible]
[illegible]の蝉も鳴止ぬ
おりしも山やまもわき湯田の夕涼
[illegible]自ら[illegible]南谷
大行の[illegible]
山寺や[illegible]日の山
[illegible]人の[illegible]
[illegible]

神[illegible]
秋過て[illegible]ゆしの[illegible]山
[illegible]上市
[illegible]の色
山寺や[illegible]の峰
天神社造立半
[illegible]窓[illegible]松柏
[illegible]

秋之部

松島にて 新[illegible]の[illegible]扇かな

諏訪宮奉納

文月よ神無諏訪人硯石 箱

白川

[illegible]

[illegible]萩や夜より[illegible]の声

[illegible]月や[illegible]薄[illegible]山の家

[illegible]

秋黒しいつ見ても[illegible] 柳浪

一夜の酒や柳のちりぞなく

[illegible]や[illegible]門の龍燈見えけれ

送り火の後あら[illegible]之虫の声

枕風と二人よ[illegible]の[illegible]と
[illegible]て

[illegible]八[illegible]

寿連川庚申よ泊合て

[illegible]秋と庚申

[illegible]八天[illegible]一[illegible]

又[illegible]七日の天の川

[illegible]野集[illegible]

[illegible]

中秋　月見　蜘蛛の糸　綱を問ふ

垂雲ながらや嵐の葉ごもり

いく日二日　俤の姿

雲ぬけ出てみつる月かな

花宮のうつろひ

千駄とくくる　ホサツ

ゑけるも芽ぶく　秋乾

移事や二荒山の松ぬき

麻ごろも八重もつる　秋の魂

炮ぬかや湯ぬきの器の盥

[illegible]

まつ二ノの力を好須の七樓

新堀會書

行底陣の猛とみて月の秋

稲の葉や我[illegible]ふ[illegible]ふ恵日

名月や晴　白き霧の色

山畑の粒のよ[illegible]の月

小松川

[illegible]ふの月

名月や垂雲走る　乙の上

名月やきらんためのの庵の松
看るとや中宿めたる田つるみ
淋しさや山路ゐ振返しの声
うら枯てしみ哀さ　蘇子亮
御ゆ人と寐やし新起ゆる
有明や山王の相も霧の海
きりぎりす啼しや寺の哉
米入る窓明り　稼ふく へ
婦聞のまかし鬼るく　鶴汀

於行寺

十人の厳泉浴し梅さ花
維摩の宿に坐ぬ仏九日ゆ
蘭の手味深き境や菊の井
世におもし野雲や西の名は金れ
くくり拾ひ集く柳ゆる
鐘会つけぬかまく鉦の月
粟稗は崩ふ王て古きうしや
打ちよきて稗さし　梅春

人だしれの寒さ　社作
斗坡

落葉よ思ひ出す事し扇〃
淋しさや常姫を梅子に思ふ哉
参宮の事や角振居て蝸牛

鎌倉

ひる枯や七里濱も八月し
おかしき夜
鶴岡も落るや神の旅支度
也く姫や江の島の寺よ秋と春
ひる枯や梢より落る蝉の殻

行徳あたり
おち返きけきハなる沖より
管笠よいふもおかし数ささき

下総八幡

神垣ハ地ハ人知らバ八幡佛
桜の実ちる門や罪なる女子
末間の縁としハなのふみして
いさゝの流をはり仏法ちハ
もの叩る境内より新ま

筆の生らし利剣思ひ残し西ふみの守りから

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古寺や紅葉もちらで哀むし

國府臺

松杉や秋風ぶきて古戦場

市川

湖水や川を流るる冥土人

[illegible]や焼茶螺

芭蕉庵の

[illegible]

[illegible]

久々と部

市中や木の葉も散て不二見

木枯の根ぶきつゝ程ぶか

屋根葺の不ぬ色や村雨

元禄九丙子十月十二日 翁三回

忌更て袖を濡るや冬梅

[illegible]や[illegible]の[illegible]
口切や[illegible]
[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]寺へ

口切や[illegible]

由比ヶ浜

人[illegible]や浜[illegible]

松ヶ岡

葛の葉の葉ぬ[illegible]や蛍の[illegible]

桂原[illegible]川

[illegible]ヶ[illegible]や[illegible]

[illegible]ぬころや[illegible]大井川

[illegible]の[illegible]大根川

隅田川

大久の[illegible]小[illegible]

菓の[illegible]

大津尚白亭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]庫裏へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

川崎宿

[illegible]

六月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]日や唯一日夏の夜加
市井や昵亀[illegible]の彩
[illegible]

[illegible]

[illegible]山の太ひり
[illegible]枝柱
[illegible]
[illegible]一群あり[illegible]
[illegible]も枯柳
[illegible]の小高い
[illegible]亀
[illegible]枝の[illegible]
[illegible]時陽る赤の
[illegible]
[illegible]

[illegible]や赤鍋
[illegible]の亀下り
[illegible]
[illegible]本焦

鷹狩の笠で雪の降る
墨絵かな　人麻呂
歌よみ人麻呂　年の雪

年内立春

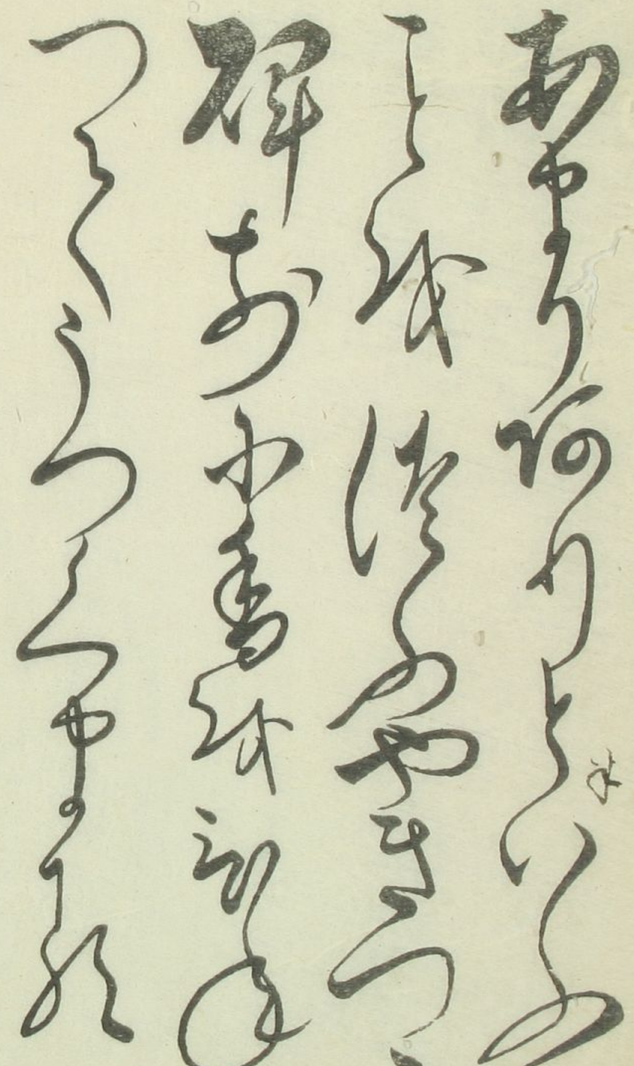
年の内は春や都の　祇園の
梅の花　祇園の梅

桃隣句選終

傳えて一雪の門人
杉さらんせしより
こそれ悪世にいりて
ゐるも世小筆ら家の
けふもちろりめて
されハ休老小楷字の

むかし一雪のごとく
あつかり法延を記
くのさち風情まて
ふるゆきこもりて
かきぬるまでさき
古硯の彫光ろあり

終



文化元年甲子九月

東都書林

江戸大傳馬町二丁目 大和田安兵衛

同柳町平川町二丁目蛤店 衆星閣甚助